

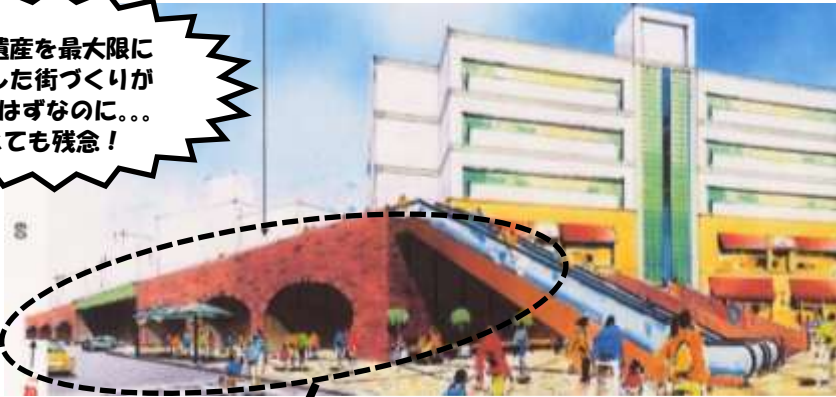
西鉄電車・赤煉瓦アーチ高架橋（3連＋3連）

**おりお未来21協議会を  
市民の声とし、取り壊し！**

「6連・赤煉瓦高架橋は残るはずだった？！」

気がつくとき取り壊されていた「若松駅舎」より、ひどいと思われる。

歴史遺産を最大限に  
活かした街づくりが  
できたはずなのに。。。  
とても残念！



オリオンプラザリニューアル構想  
【H13（2001）年9月】

『折尾駅周辺将来図』【現在活用中】



駅前広場の歩道は、  
高架橋を残すために  
広く確保していた？！



『折尾駅周辺連続立体交差事業』リーフレット 【現在配布中】

### 「北九州市の意図的関与」の疑いについて

- ◆赤煉瓦高架橋の取り壊しだけでなく、すべての決定において、北九州市は、「市が決定したのではない。おりお未来21協議会の皆さんが決定された」と、回答されます。
- ◆専門的な知識のない、おりお未来21協議会、正確な情報を知らせないばかりか、虚偽の説明をしてまでも「取り壊し」という見解を作り上げました。
- ◆学識経験者や地域の人などが、貴重な歴史遺産であると評し、保存をして欲しいという要望も無視しました。

◆平成22年5月25日、おりお未来21協議会の新会員より、今まで北九州市から示されなかった「赤煉瓦高架橋の、歴史的な価値の解釈の仕方」が知らされる。

◆「折尾まちづくりビジョン」を理由にした取壊しは、行政の責任放棄のようなもの。  
「赤煉瓦高架橋に対する価値評価」について、保存措置を講じる主体である北九州市が、「市」としての正式な見解を公にし、「おりお未来21協議会」で再検討できるよう、折尾未来21協議会を通して、北九州市に「赤煉瓦高架橋の価値の調査」を依頼したが、表面上、「市は関与しない。おりお未来21協議会の決定」としている。

◆「赤煉瓦高架橋取り壊しの決定」は、高架橋の価値を知らされていなかった平成20年6月の「折尾まちづくりビジョン」時の判断だったため、平成22年6月の「総会」での再検討を要望した。しかし、却下される。《北九州市の意図的関与が疑われる》

◆7月、「土木学会」や「九州産業考古学会」から、北九州市長に「赤煉瓦高架橋の保全活用の要望書」が提出される。様々な貴重な価値と北九州市の意図的関与が判明する。  
・「赤煉瓦高架橋」は、『Bランク＝有形文化財の価値』があると判明。  
・北九州市は『B級品＝あまり価値がない』と、歴史建造物部会やおりお未来21協議会に、伝えていたことが明らかになる。  
(教育委員会文化財課の職員は、赤煉瓦高架橋の価値等を知っていたと思われる)

◆7月14日、運営委員会で「土木学会・要望書」のコピー配布。  
『土本的価値や歴史的価値の解らない協議会が取り壊しを決定するには責任が重い。学識経験者や北九州市に判断を任せるべき』と、再検討を要望する。  
・役員が「一旦、決定したものは変更しない」と言い、おりお未来21協議会で「赤煉瓦高架橋取り壊し決定」は変更されず、「赤煉瓦高架橋」は取り壊された。

※6月15日の運営委員会の決定は「記録保存だけで、調査はしない」だったと知り、書面でのやり取りをしない、おりお未来21協議会と北九州市に不信感を抱く。

※平成22年9月13日、欠席した人にも進捗状況がわかるように、議事録の作成を要望する。

**北九州市は「計画ありき」で、  
「おりお未来21協議会を利用」しているように思います。**

**このようなことで、折尾の貴重な歴史遺産が  
取壊されていっていいのでしょうか！？**